

「学び」の機会

- ・生野小学校の活用にあたっては、教育機関など様々な学びの場となることが、特に望まれています。これまで小学校として学びの場であったことを踏まえつつ、学校跡地を核とした新しい「学び」の視点を持った活用や、地域ならではの文化を活かした「学び」の機会の提供について記載してください。
- ・周辺の小中学校との連携などによる、生野区の教育環境向上に向けた取り組みについて記載してください。
- ・周辺エリアとの繋がりによる地域活性化や周辺エリアへの波及効果について記載してください。

01

「学び」の機会についての考え方

平成27年に策定された「生野区西部地域教育特区構想」より、生野区は、中学校区を基本とした学校配置の再構築に加え、幼稚期から中学校卒業まで地域ぐるみで関わりを持ち、安心して子育てができるまちづくりの実現に向けた新たな学校づくりを進めることを発表しました。

地域を巻き込んだ教育環境向上に向けた取り組みと同時に、生野区の魅力のひとつである「多国籍・多文化」を活用した教育事業を実施することが、生野区独自の「学び」の機会の創出に直結すると考えております。

今日の日本においては、日本人は日本の学校に通うべきという社会的通念が強く、今後日本が国際都市として発展していくためには限定的・閉塞的な教育環境であるのが現状であると危惧しております。そしてそれは、現在の生野区そして大阪市にも同様のことが言えると考えております。

私たちは一つの目的のもとにあつまつた多様なバックグラウンドを持っています。創業以来私たちの学校は規模の拡大だけでなく世界でも有数のインターナショナルスクールの一つとして高い評価をうけています。シンガポールから始まり、マレーシア、タイ、U A E、ベトナム、インド、日本にまで広がり、この間、多様なバックグラウンドを持った生徒にインド式と国際式なカリキュラムを提供するインターナショナルスクールとして発展してきました。私たちは世界の全ての文化やコミュニティを取り入れた学校。「NO BOUNDARIES(境界無し)」を提供します。

これからの日本を担っていく世代にとって、その学びの可能性を無限に引き出せる教育と環境の整備を行いたいと考えております。また、生野区の教育環境向上に向け、海外から高度な外国人材が集まり、大阪そして日本をリードするグローバルゲートシティとなっていくことを目指します。

また、必ずしもインターナショナルスクールの生徒となる子ども（幼児～高校生）のみが対象というわけではなく、子どもから大人までが、学びたいことをいつでも学ぶために気軽に集える場としての機能も併せ持ち、生野区の豊かな学びの発信地とさせることを目的とします。



インターナショナルスクール運営

未就学児を対象とした幼稚教育、そして小学校1年生から高校3年生にあたる12年間の初等～高等教育を、国際バカロレア（IB）や、インドカリキュラム（CBSE）等による教育システムに沿って行います。

すでに56か国の国籍の2万人を超えた学生が在籍しており、現在、シンガポール・マレーシア・日本・タイ・アラブ首長国連邦・ベトナム・インドの7か国で22校のインターナショナルスクールを運営しております。

国境を越え複数の学校や教育カリキュラムを運営し、又、世界の教育業界に関する最新の知識を持つ様々な国籍の教育者達が協力し情報共有できる基盤が私たちの保有する強みです。

最高の国際学習基準を提供する学校になるというビジョンのもと、若者の心を引き出し、将来の世界的なリーダーに育てる使命と質の高い教育の提供に重点を置いています。

【当法人インターナショナルスクールの特徴】

- ・ 幼児期からの数学および英語教育
- ・ 初等教育から始まる第二言語・第三言語
- ・ ロボット作りやプログラミング
- ・ 専門的なIT教育
- ・ ほぼ全ての教科でスマートボードを導入 等



生涯学習講座

多世代の地域住民に向けた生涯学習講座を開講します。

インターナショナルスクールが運営する生涯学習講座として、語学学習は勿論のこと、IT講座・ビジネス講座・インド式数学講座等、多様な学習目的を持つ人々の学びを支え、且つ開かれたコミュニティの場としての役割も担いたいと考えております。

